

---

## 謝 辞

白 井 洋 子

島田法子先生は、1992年4月に本学英文学科の専任教員として着任されました。それ以前に非常勤講師として教鞭を取っていらした年数を加えますと、30年以上もの長きにわたり、英文学科のため、大学のために尽くしてこられたことになります。この間、島田先生は、英文学科長をはじめとして、大学院文学研究科英文学専攻主任、大学評議員、成瀬記念館主事、生涯学習センター所長、総合研究所所長の要職を歴任されてきました。また、教育面においては、卒業論文の指導はもちろんのこと、アメリカ研究専門科目ならびに英語論文作成法、基礎英作文等、主要科目を担当され、日々、厳しくもきめ細かなご指導にエネルギーを注いでこられました。

島田先生は、本学本学科のアメリカ研究の歴史とともに歩んでこられた方でもあります。目白でのアメリカ研究は、1962年に井出義光先生、清水知久先生のお二人によって始められましたが、島田先生はその開始から3年目に両先生のご指導を受けてこられました。アメリカ研究開設当初の授業はとても厳しかったとのお話ですが、そこで徹底して鍛えられた島田先生は、ご自身の受けた教育を後輩の学生たちに伝えようと尽力されてきました。アメリカ史で何種類もの地図を描かされ、大学ノート一冊が瞬間に埋まってしまうほどの講義内容、演習では毎回のように課題を与えられ、提出期限にはことのほか厳しかった島田先生のお授業に、泣かされた学生も多かったのではないのでしょうか。英語論文作成法Ⅱの八王子合宿セミナーまでに10枚のエッセイを書き上げて参加することが、毎年のアメリ

---

カ研究ゼミ生には課されていますが、それまでのスケジュールとご指導の厳しさは、合宿セミナーでの懇親会で先生がお見せになる笑顔で帳消しにされました。実際、島田先生は厳しい先生との学生間の評判も、演習や卒論ゼミを履修した学生からはとても優しい先生との評価に変わっていきます。基礎力を徹底して身につける、自由な発想を大事にする、これが島田先生の教育方針だということを、学生たちは身をもって体験したのだと思います。

ご専門をアメリカ移民史研究におかれた島田先生は、ハワイ日系移民史の分野で数多くのご研究を発表され、学会活動社会活動においても幅広く活躍しておいででした。アメリカ史研究移民史研究分野で多くの学生、院生を育てられ、若手研究者の育成に尽力してこられました。私事にわたりますが、島田先生と同期に近い女子大アメ研卒業生で作った目白アメリカ研究会に私も途中から参加させていただきましたが、同窓生として何でも相談できる勉強会として、共同研究や翻訳出版等でご一緒させていただいたことも楽しい思い出となっております。

何事においてもてきぱきと仕事をこなされ、学務と教育、学生指導の合間を縫って研究時間を編み出しては次々にお仕事を発表されておいでだった島田先生のお姿を、その軽やかな身のこなしとともに、私たち同僚教員や学生はいつまでも忘れることはないでしょう。そのような先生を9階ではもうお見かけできなくなるのは何とも寂しい限りです。これまでのご指導ご教示に英文学科の教員として心より感謝の意を表したいと思います。これからも英文学科を温かく見守っていただけますよう心よりお願い申し上げます。

---